

令和2年

福島眼科集談会

(専門医制度認定事業 59055)

日時：令和2年1月18日（土）
午後4時00分～

会場：ザ・セレクトン福島
福島市太田町 13-73
TEL 024-531-1111

特別講演

「デジタル支援硝子体手術」

杏林アイセンター 井上 真

近年、眼科手術においてもデジタル支援技術が応用されている。ヘッドアップ手術（HUS）では手術顕微鏡にアイピースの代わりにビデオカメラを装着して手術画像を3Dモニターで写し、術者は3Dバーザーをかけて画面を観察しながら手術を行う。術者はアイピースを覗く前傾姿勢から、前方のモニターをみて手術を行うのでHUSと呼ばれている。導入当時は術者の姿勢など、エルゴミクスが強調された手術であったが、最近では高倍率で手術ができる装置として、デジタル支援手術のプラットフォームとして注目されている。網膜硝子体手術では3Dモニターに顕微鏡の手術画像だけでなく、術中OCTや眼内内視鏡などを画像に同時に提示できる。手術装置と接続すれば手術中の吸引圧や灌流圧などのパラメーターも同時に映し出すことができる。今回の講演では現行でのデジタル支援手術を紹介して、その有用性を解説する。

井上 真（いのうえ まこと）先生 御略歴

1989年3月	慶應義塾大学医学部卒業
1989年5月	慶應義塾大学医学部眼科教室入局
1994年7月	杏林大学医学部眼科に国内留学（Clinical fellow）
1997年7月	米国デューク大学アイセンターに留学 (Research fellow)
2003年10月	慶應義塾大学医学部眼科学専任講師
2007年4月	杏林大学医学部眼科学准教授
2014年10月	同教授

現在に至る